



連休明けの七日(木)には、全校での石ひろいと高学年の児童によるギョギョランド清掃を行いました。前日の雨が嘘のように晴れ渡り、熱中症を心配するほどの天気となりましたが、子供たちは最後まで必死になって石拾いや清掃に取り組みました。

常々感じていることですが、本校の児童は本当に**一生懸命に掃除をします**。これまで三十余年、この職業についていますが、その経験の中でも一番です。これは、**学校教育に限ったことではなく、家庭や地域の教育力の高さを表すものだと思います**。前号にも紹介したように、この地域には、学校のため、子供たちのために惜しげもなくお力を貸して下さる方がたくさんいらっしゃいます。そうした方々の背中を見て、子供たちは多くのことを学んでいるのだろうと思います。私自身、そうした背中を見せられる大人でありたいと思います。

ギョギョランドの清掃作業を行う前に、校務主任の山口先生が子供たちに対して、次のような話をしていました。
「ギョギョランドの藻は、二十数年前に先生が入れたのだけれど、あまりにも増えすぎてしまって環境を悪くしてしまったのではないかと後悔しています。今日は、少しでも多く、藻を取ってもらいたいと思います。」

山口先生は、最後に**これらの藻が外来種だという事実**を加えて話を締めくくりました。私は、清流学習を進める子供たちにとって、この一言は素晴らしい動機付けになると直感しました。

「増えすぎた」という言葉は、子供たちには外来種の生命力、繁殖力の強さを強烈に印象付けたはず。そして「環境を悪化させた」、「後悔している」といった言葉は、在来種を守る上で、外来種は脅威となり得る存在であることを感じ取らせることができたはずだからです。**教師の投げかける一言の可能性を強く感じる**とともに、これらの言葉によって、子供たちがどんな変容を見せてくれるか、期待は膨らむばかりです。



本年度、学校運営協議会が発足し、第一回の会合を開きました。これによって、今まで以上に地域と深くつながり、学校運営を進めることとなります。その一環として、**座談会「せせらぎの会」を定期的**に開催し、**意見交換**をすることとしました。詳細については、決まり次第お知らせします。多くの方のご参加をお待ちしています。